

デジタル特定ラジオマイクの高度化に向けた技術的条件等の検討開始

- 移動通信システム委員会 特定ラジオマイク作業班 -

資料6-2

システムの概要

- デジタル特定ラジオマイクは、放送番組制作やコンサート、舞台劇場、イベント会場等で高い音声品質を確保しつつ、同一場所においてより多くのワイヤレスマイクの利用を確保するために平成21年に700MHz帯の周波数で制度化。
- 平成23年9月に策定された周波数アクションプランにおいてその移行先周波数をテレビホワイトスペース(470MHzを超え714MHz)及び1.2GHz帯とし、平成24年にその技術的条件が定められたところ

検討を行う背景

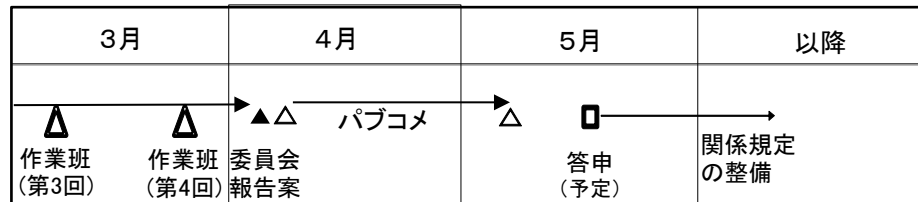
- デジタル方式は、アナログ方式と比べ、周波数の利用効率は高いものの、デジタル処理による音声の遅延時間が生じ、コンサート等の極めて少ない遅延を要求される場面においては利用し難い状況。
- 新たな周波数帯への移行に併せ、遅延時間を抑えた低遅延型ラジオマイクの開発が求められているところ。

検討内容

- デジタル特定ラジオマイクの高度化に向けた必要な技術的条件等については、平成25年1月の移動通信システム委員会において、検討を開始することとされ、本作業班で以下の技術的条件について検討を行うこととされた。
 - ・ 遅延を1ms以下に抑えた「低遅延型ラジオマイク」の技術的条件検討
 - ・ ホワイトスペース帯においては、他のシステムと周波数を共用することからホワイトスペース利用システム相互間の共用検討
 - ・ その他のシステム・条件についても適宜見直し

今後の進め方(案)

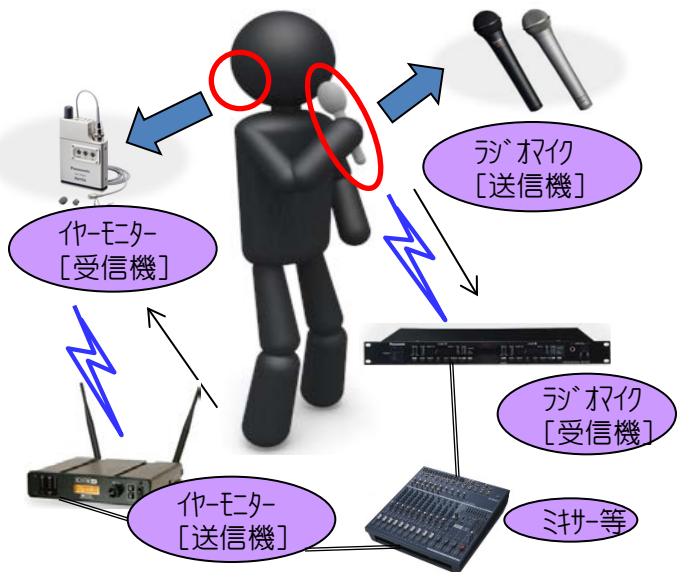
- 第6回会合(3月下旬を予定)
 - ・ 作業班報告の作成
- 移動通信システム委員会(4月上旬を予定)
 - ・ 委員会報告(案)の作成
- 情報通信技術分科会(5月下旬を予定)
 - ・ 「小電力の無線システムの高度化に必要な技術的条件」の一部答申(予定)



デジタル特定ラジオマイクの高度化に向けた技術的条件等の検討

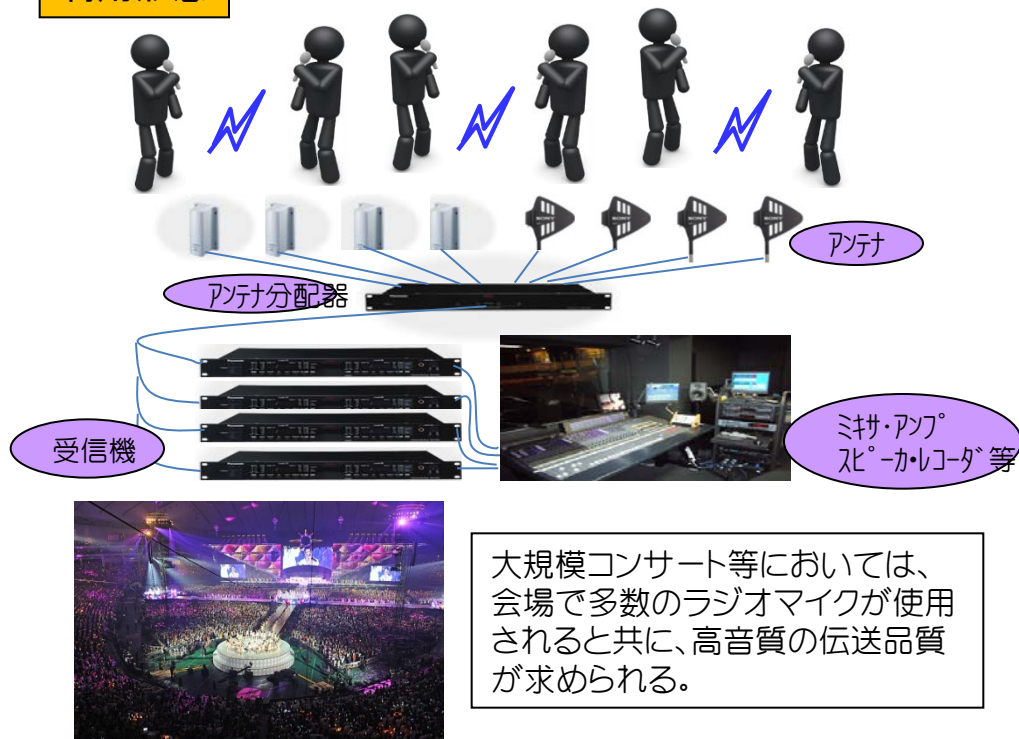
現行のシステムの概要と課題

特定ラジオマイクの利用イメージ



現在のデジタル特定ラジオマイクでは、デジタル信号処理を行うため、ラジオマイク送受信機間及びイヤ-モニター送受信間において数ms程度伝送遅延が発生する。

利用形態



課題

現在のデジタルラジオマイクでは、デジタル信号処理による数ms程度の遅延が発生

コンサート・舞台等では、極めて少ない遅延時間が求められる。

遅延を1ms以下に抑えた「低遅延型ラジオマイク」の技術的条件検討

ホワイトスペース帯においては、他のシステムと周波数共用

ホワイトスペース利用システム相互間の共用検討